

# 笑顔のアートプロジェクト



外壁に花を咲かせる黒田さん



絵の前で記念撮影

世界を舞台に活躍しているイラストレーターの黒田征太郎さんが3月31日に公立小野町地方総合病院を訪れ、町内の小学生や保護者、病院関係者など総勢70名とともに病院の壁いっばいに絵を描く「アートプロジェクト」が開催されました。これは、医薬品会社の日本新薬(株)と黒田さんがタイアップしての全国キャラバン「笑顔のアートプロジェクト」で、絵を描くことで地域の絆を深め病院を明るくしているという活動です。

まず黒田さんが病院の外壁に大きな花を描くと「うわ〜」と子どもたちから歓声があがり、「さあ、みんなも思い切り描いて〜」のかけ声で、病院内の壁に花や鳥など好きな絵を描き始めました。参加者が描いた絵に、黒田さんが大きな雲や鳥を描き加えるなど、たちまち廊下の壁一面に楽しい絵が広がりました。参加した子どもたちは「家では壁に絵を描くと叱られるけど、今日はたくさん描いても大丈夫。すごく楽しい」と言っ

張り切って描いていました。最初は見学していた保護者も、子どもたちの中に引き込まれ「壁に絵を残すことができ、よい記念になります」と嬉しそうでした。今回のプロジェクトでは、院内の一階と二階の廊下壁面に絵を描きました。来院の際には自由に見学することができ、ので、どうぞ子どもたちの元気な絵をご覧ください。

## 公立小野町地方総合病院からのお知らせ

### 「水虫」治療のコツ！

今回は、当病院の皮膚科非常勤医師、岡部秀子(おかべ ひでこ)医師から水虫についてお知らせします。

いよいよ春、水虫の季節です。寒い冬の間にひっそりと冬眠していた水虫が活動開始のときです。いわゆる水虫を引き起こす白癬菌は、抗白癬外用剤を塗ることで活動を停止します。症状が落ち着くと治ったと思い塗るのを止めてしまう人が大半です。しかし、白癬菌は死滅してしまっただけではありません。活動を止めていただけなのです。そのため、春になり活動に好適な条件が揃うと活動を再開し、水虫の症状が再燃いたします。

水虫の治療のコツは、症状が落ち着いても薬を塗り続けることです。それと白癬菌が活動し

やすい状況を作らないことです。足は良く洗いきちんと拭き取ること。靴は最低2足準備しておき交代で履くこと。家族内感染を防ぐため足ふきマットは共用しないことなど。

一般に足がかゆくなるとすべて水虫と思いがちですが、そうでないこともあります。水虫の薬を外用しても良くならないとき、または水虫であっても外用剤が合わなく悪化する時もあります。いずれにしても治りが悪い時は皮膚科を受診してください。

### ■皮膚科の診療日および受付時間

診療日：毎週 水曜日

受付時間：8：00～12：00

13：00～16：30